

第3回

循環型包装コース

講師 住本技術士事務所 所長 住本 充弘 氏

- 開催日：令和7年11月20日(木) 13:00～17:00
- 会 場：Zoomによるオンラインセミナー
- 主 催：公益社団法人日本包装技術協会

受講のお勧め

EUのPPWRは2026年8月12日より適用開始となる。日本も再生プラスチックについて改正資源有効利用法が2026年4月1日より施行となり、プラスチック製品の生産・販売が一定以上の製造事業者は、再生材の年間使用量の目標とその実績報告が義務化の方向となる。

PPWRのガイドラインも年内には出る予定であり循環型パッケージに向けて着々と手が打たれている。プラスチック包装だけでなく、紙仕様の包装、ガラス容器、アルミ缶、物流包装なども循環型パッケージとなる。

我々、包装関係者は、この問題についてどのように対応していくべきか、国内外の事例を基に説明する。

開催要領

- 名 称：第3回循環型包装コース
- 日 時：令和7年11月20日(木) 13時～17時
- 開催方法：Zoomによるオンラインセミナー
- 定 員：300名

参加費

- 会 員：9,900円(消費税・テキスト代込み)
- 一 般：22,000円(消費税・テキスト代込み)

第3回循環型包装コースの参加申し込みについて

- 本催しは「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となります。

お申し込みは当会ホームページの循環型包装セミナー参加申込ページよりご登録いただくようお願いします。

当会ホームページURL：<https://www.jpi.or.jp/>

- 参加申込者には参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)
- 申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。
- 申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人のご参加となります。

※同じ名前の方のご参加を発見した場合は、ご連絡した後に参加登録の削除をする場合があります。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ませんのでご注意ください。
- ⑤開催7日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください。

プログラム 11月20日(木) 13時～17時

※講演の都合上、講演時間の延長などが発生する場合があります。ご了承ください。

時 間	講 義 内 容
13:00 }	1. 2026年8月から適用のPPWRのポイント 1.1 目的 1.2 循環型パッケージとは 1.3 リサイクル可能な設計要件(DfR) 1.4 拡大生産者責任(EPR)とリサイクル費用の負担 1.5 ラベル付けの義務 1.6 Traceability 1.7 輸送用包装資材のリユース 1.8 使用済み包材の回収、選別の事例 1.9 グリーンウォッシュ
	2. 日本からの輸出の包装対応 2.1 適合宣言書作成(食品、医薬品、化粧品、産業製品などの輸出メーカーが作成) 2.2 全ての包装材料のrecyclableの認証(EUが認めた第三者の認証機関) 2.3 製品分野ごとのrecycled plasticsの配合義務量 2.4 包装仕様の中のrecyclableの重量割合が最終的には80%以上 2.5 包装のminimize化 2.6 certified recycled PE/PPの入手は 2.7 その他
	3. 国内外の具体的な対応事例 3.1 recycled plasticsの使用事例 3.1.1 海外事例 3.1.2 国内事例 3.2 海外の包装関連企業及び団体の対応事例 PPWR対応の具体的な行動 3.3 日本が輸出向けになすべきこと 現行の国内の包装仕様では、EUへの輸出ビジネスは続けられない。ビジネスを続けるための対応事項はなにか。
	4. Minimize化の対応事例 4.1 海外事例 4.2 国内事例
14:30 }	5. ケミカルリサイクル 世界のケミカルリサイクル対応事例、PPWRの飲料用PETボトルはケミカルリサイクル、マスバランスでOKとなりそう。軟包装材料はどうなるか。
	6. メカニカルリサイクル向けの脱インク及び脱臭の現状 PPWRの基本はアップサイクリング、特に脱臭が課題
	7. EUはラミネート包材、多層容器などのリサイクル プロジェクト終了し技術の確立。ラミネート品のガイドラインは
	8. コンポスタブル、バイオプラスチックの規制はどのようになるか コンポスタブルは、家庭での設備と国としての設備が必要。バイオプラスチックは、一時的にrecycled plasticsの代用となるか
16:00 }	9. 紙仕様の包装 紙仕様の輸出包装もrecyclableである。欧州の紙の回収streamで処理できない仕様は、欧州市場では受け入れられない。紙仕様の事例。
	10. PPWRにおける医薬品包装 Recycled plasticsの配合は2035年まで延期であるが、recyclable、EPRは必須。世界の医薬品メーカーの動きは活発。

講師紹介

住本技術士事務所 所長 住本 充弘 氏 技術士(経営工学)、包装管理士
 JPI「包装技術便覧」、「包装技術」をはじめ、業界誌、講演等多数

個人情報の取扱いについて

個人情報は「第3回循環型包装セミナー」の事業実施に関わる資料の作成、並びに当会が主催する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。参加申込によりご提供頂いた個人情報は法令に基づく場合などを除き、第三者に開示提供する事はありません。

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会 業務本部 教育・研修部 担当:佐藤
 〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
 TEL:03-3543-1189 FAX:03-3543-8970 e-mail:satou@jpi.or.jp